

シグマ研究委員会

核融合核データワーキンググループ会合議事録

日 時 昭和58年10月13日(木) 13:30~17:00
場 所 原研東海研 研究2棟 221号室
出 席 者 田中茂也, 浅見哲夫, 中島 豊, 紫田恵一, 前川 洋(原研),
真木紘一(日立), 村田 徹(NAIG), 岩崎 信(東北大),
神田幸則(九大), 菊池康之(原研, 一部出席)

配布資料

- 1) Measurements of Tritium Production Rate Distribution in Simulated Blanket Assemblies at the FNS (JAERI-M-83-196, NEACRP-L-268)
- 2) JENDL-3 評価予定者リスト

I 報 告

- 1) FNS 用核データ評価について
 ${}^6\text{Li}$, ${}^7\text{Li}$, ${}^{12}\text{C}$ は紫田委員が評価済みである。
 ${}^{16}\text{O}$ は本グループのサブ・ワーキング・グループでまとめの段階にある。
その他 JENDL-2 を基にして核データ・センターで再検討した。
- 2) FNS 実験の経過
前川委員より資料 1) に基づいて今迄の経過, 現状, 計画について詳細な説明があった。特に, その中での評価核データの位置付けについて, 各委員の理解が深まった。
- 3) DDX について
炉定数専門部会核融合炉遮蔽定数ワーキンググループで進められている DDX の炉定数化に関する活動の詳細が説明された。(菊地)
今後の活動方針との関連が強く, 活潑な討論がなされた。

II 議 事

1) 今後の活動方針

a) DDXの実験データ

実験データの収集を一活動として採りあげること検討する。

本回の菊池氏の説明を参考にすると共に、データの現状を知るために、次回岩崎氏から実験の現状の解説をお願いすることとした。

b) 評価活動

核融合炉に関連ある核種の評価をすることは合意された。

核種については、資料(2)を基に議論された。

^{14}N が一つの候補となった。 ^{16}O と同様に出来る。しかし、核融合炉との関連が少ない等種々議論があり結論を次回に持越した。

2) 実験データのプロット作業

ファイル作成ワーキング・グループでも計画されているとの話があり、議論の結果、そちらに任せることとした。

3) 井口哲夫氏(東大)を本ワーキング・グループの委員として願うことにした。

(4) 次回 : 11月17日 東海で開催。